

令和6年度

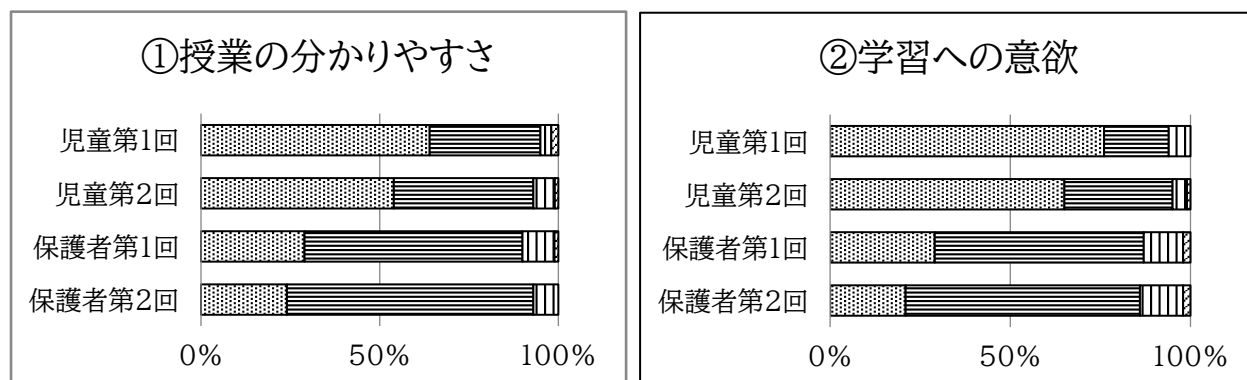
京都市立大原野小学校 第2回学校アンケート結果

第2回学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。アンケート結果を分析・検討し、学校運営協議会においてご意見をいただきました。その結果をお知らせします。さらによりよい大原野の教育を進めていきたいと考えています。今後とも、本校教育にご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。

本校では、学校教育目標を「自ら学び未来を創造する子の育成～自分らしい生き方を探究する児童～」とし、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を柱に全ての教育活動を行っています。この3つの柱の観点から、いくつかを取り上げて考察しました。

■ そう思う ■ 大体そう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

1. 確かな学力



～ICTの活用で授業が分かりやく～

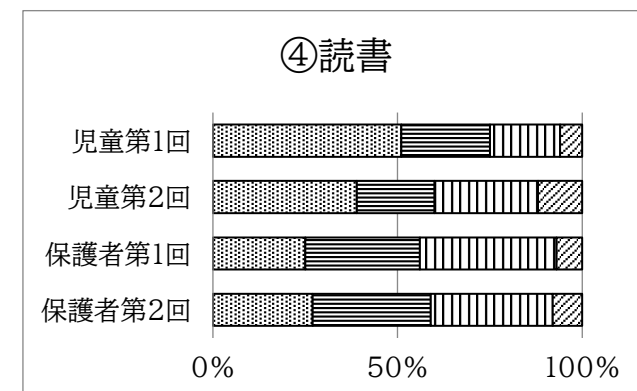
項目①の「授業の分かりやすさ」については、児童が93%、保護者が93%「そう思う」「大体そう思う」とプラス評価しています。これは毎時間、授業の「めあて」を児童がしっかり意識して学習に取り組み、振り返りを行った成果だと考えます。また、教員が複数で指導したり、個別に対応したりすることを積極的に取り組んできたことや、具体物を使った操作活動を取り入れたり、様々な場面でICT機器を活用したりして、児童が分かりやすい学習展開を工夫してきたことも成果であると考えます。そして、一人一台GIGA端末が与えられ、「Microsoft365」「ロイロノート」などの学習支援ソフトや、「ミライシード」といったデジタルドリルなどを積極的に活用したことで、どの子も楽しく分かりやすい授業を展開できたことも成果の一つと考えられます。ただ、「あまりそう思わない・そう思わない」と回答した児童が増えたことは否めません。児童達の「分かった」「できた」が増えるよう、これまでの取組をさらに充実させることはもちろん、ペア学習やグループ活動を計画的に授業で取り入れたり、みんなの前で発表する場を設けたりして、児童達が自分の考えを交流し合えるようにしていきます。

～学習意欲の低下が気になります～

項目②の「学習への意欲」については、第1回と比べ、児童・保護者の「そう思う」が減少しましたが、「そう思う・大体そう思う」と95%の児童が回答しています。児童が自ら「がんばっている」と自覚し、保護者の方からは意欲的に取り組んでいると回答していただき、一定の成果がみられたと思います。しかしながら、「あまりそう思わない」「そう思わない」のマイナス評価も気になります。今後も一人一人が自主的に学習に取り組むように授業を工夫していくと同時に、マイナス評価をした児童について、「がんばっている」と実感できるように、これからもできる限りの工夫をしていきたいと考えます。

～読書週間で読書の大切さを伝えたい～

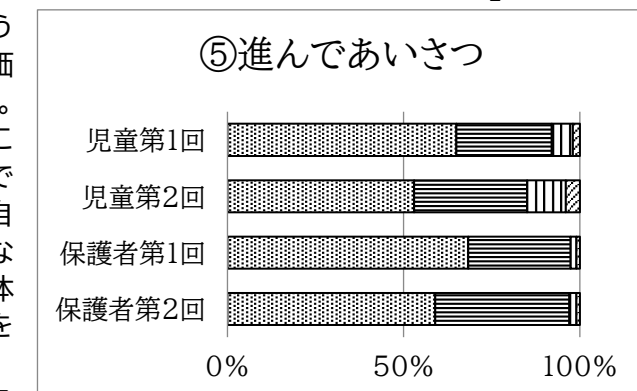
項目④の「読み聞かせや読書」については、児童の80%がプラスの評価をしており、児童の読書への興味関心は高いといえます。本校では学校図書館司書を配置し、学習に必要な図書を整備し、児童が学習に生かすことができるよう環境づくりを大切にしています。「読書ノート」の活用や「100冊読書」の取組など児童が継続的に意欲的に読書を楽しむことができるようにしてきています。また、月曜日の朝の帯時間に読書タイムを設定し、週明けの児童が落ち着いた気持ちで1週間のスタートを切ることができるように取り組んでいます。年に2回の「あじさい読書月間」「どんぐり読書月間」も児童の読書好きを高めている要因と考えます。とはいえCとDを合わせて20%のマイナス評価も気になるところで、夏休み中に「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されました。本校の6年生も取り組みましたが、結果を分析しますと「読書好き」と答えた児童と「好きではない」と答えた児童では、正答率において国語・算数両教科とも6ポイント以上の開きが見られました。「読書」と「学力（正答率）」に相関関係があることを意識して児童に読書の有用性を指導していくことは教職員の課題であると考えます。低学年の読み聞かせから高学年の親子読書等、家庭の読書環境の整備も啓発していきたいと考えます。



2. 豊かな心

～心のこもったあいさつでつながりを深めたい「あいさつスタンプラリー」～

項目⑤の「進んであいさつ」については、「そう思う」「大体そう思う」と85%の児童がプラス評価をしています。1回目と比較して7%減りました。なかなか自分から大きな声を出しにくいということもその理由と考えられますが、大きく元気な声でなくとも、「気持ちの良いあいさつ」はできます。自分も相手も気持ちが良くなるあいさつとはどんなあいさつなのか…、「めざすあいさつの姿」を具体的に示すことや「あいさつをすることの意図」を児童に説いていくことが大切であると考えます。また、今年度は児童会が中心となって「あいさつスタンプラリー」の取組を実施し、自発的な活動を進めてきました。一時的に盛り上がりましたが、継続性に欠けていたところが課題です。人と人の心をつなぐ第一歩は「気持ちのこもったあいさつ」だと考えます。次年度も引き続き自ら進んであいさつをし、「つながり」を深めていくことができる取組を企画し、実践していきたいと考えます。



～「きらきら見つけ」で友達を大切に～

項目⑥の「友達を大切にする」については、児童の99%が「そう思う」「大体そう思う」と回答しました。いじめや友達関係について年4回アンケートをとり、「先生と話そう月間」として、アンケートを基に担任が児童と個人面談をする機会を作ったり、道徳科や毎月設けている「つながりの日」の学習を通し、人権学習を進めたりした成果だと考えます。保護者の方からも100%「友達を大切にし、仲良くするよう声かけをしている」と回答がありました。学校では終わりの会などに一日を振り返り、友達のいいところ見つけをしたり、クラスで取り組んだ学習活動や学校行事などでの友達の良かったところやがんばったことを「きらきらカード」に書いて渡す「きらきら見つけ」をしたりします。児童達は、この「きらきら見つけ」を大変楽しみにしています。このように、学校生活を通し、子ども同士がお互いに認め合い、一人一人をかけがえのない存在として大切に、自分で考え、正しく判断して行動することを意識して取組を進めてきました。ただし、個々の児童を見ると、まだ気になる部分もありますので、教職員もしっかり意識をして、これからも取り組んでいきたいと思えます。

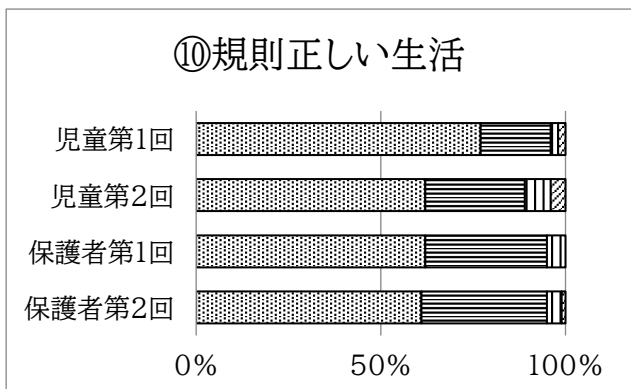
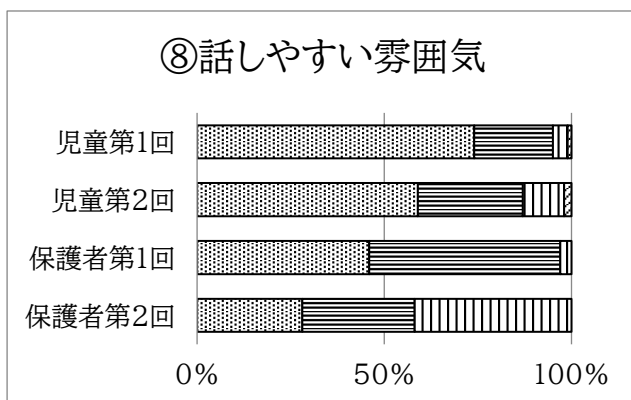
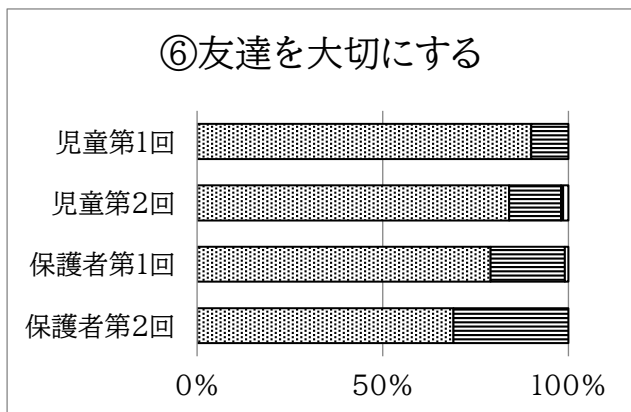
～「先生と話そう月間」で児童に寄り添う～

項目⑧の「話しやすい雰囲気」については、児童は87%のプラス評価でした。しかし、13%がマイナス評価をしており、気になります。悩み事や困り事があっても、高学年になると恥ずかしがったり、周りの目を気にしたり、家族に心配かけたくないという気持ちが出てきたりして、相談できずにいる児童もいます。学校では、「先生と話そう月間」を設けて、定期的に児童達と面談をする機会を作り、安心して話せる場を設けています。これからも「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」を心がけ「児童の心に寄り添う指導」を進めていきたいと考えています。

3. 健やかな体

～早寝早起き朝ごはんで規則正しい生活習慣を～

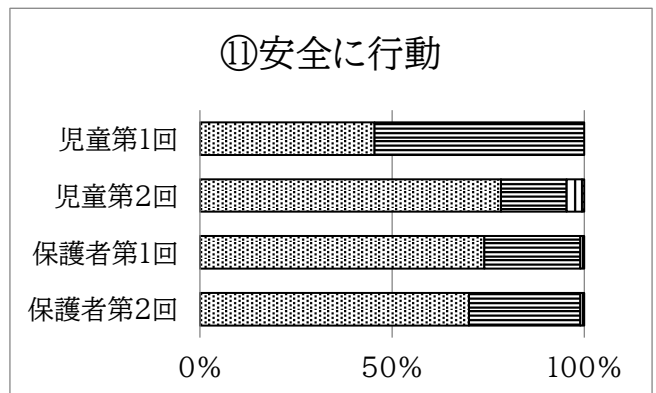
項目⑩の「規則正しい生活習慣」については、児童の87%がプラス評価しています。しかしながら「そう思う」と回答した児童は1回目と比べ15%減少し、「あまりそう思わない」「そう思わない」とマイナス評価をした児童が13%と 1 回目よりも8%増加しました。明るく元気に学校生活を送る上で、「早寝早起き朝ごはん」は大切です。「保健だより」や「給食だより」、夏休み・冬休み明けの「自分の生活を見つめてみよう週間」の取組を参考にいただき、ご家庭でも引き続き基本的な生活習慣について話題にいただき、家庭と学校が連携して児童



の健やかな成長について取り組んでいきたいと考えています。

～「交通安全優良学校」として表彰されました～

項目⑪の「安全に気をつける」でも、高いプラス評価を回答しています。本校では、毎月「安全ノート」を活用し、校外・校内で安全に過ごすための学習をしています。また、長年に渡り、交通安全教室や自転車教室なども地域・保護者の協力を得ながら実施してきており、その功績が称えられ、今年度「交通安全優良学校」と表彰されました。長期休業前には休み中の校外での安全な過ごし方、町別児童会では安全な登下校の仕方と機会ごとに指導をしています。さらに、様々な場面を想定した避難訓練を行い、自分の命を自分で守るために必要な正しい行動について考える時間を持っています。教職員は、児童の命を守り切ることができるよう万一来に備え、共通理解を図り、事故を未然に防ぐこと、事故等の緊急時に迅速・適切な対応を連携して行うことができるよう「実地訓練」に取り組みました。（「HANA モデル」）今後も様々な場面・場所で危険を予測し、適切に行動できる力を保護者・地域と連携しながらつけていかなければならないと考えます。



4. その他（学校運営協議会でいただいたご意見を載せています）

- ・今年度から学年ごとに学習発表会を実施したことで、発表する側は他の学年全員に見てもらうことができ、感想交流もできて大変良かった。
- ・移動図書館の利用数が大変減っていることが気になるので、移動図書館の場所を正門前に変更する。
- ・体振で親子スポーツ（モルック・スクエアボッチャ）を計画している。学校でも使用したい等、要望があれば貸し出し可能である。
- ・地域のものづくり教育の一環で3年生対象に野菜の授業や3・5年生、地域の方と田植えや稲刈りの授業を行っている。子ども達の喜ぶ顔や興味津々の顔を見ると嬉しい気持ちになる。
- ・授業参観をして、英語の授業に感心した。各学年の成長した姿を参観できた。
- ・登校の様子で、まとまって登校できている班もあれば、バラバラになっている班の様子も見られるので学校とともに子ども達に「安全な登校」について指導していきたい。
- ・放課後まなび教室で「読み聞かせ」を実施していこうと考えている。
- ・少年補導「里山ウォーキング」が3月16日に実施されるのでたくさん参加してほしい。
- ・民生児童委員として「なぬか会」と「ケナフの栽培」に携わってきました。子ども達も楽しく活動できて嬉しく思っている。ところで、GIGA 端末導入で子ども達の視力低下につながっているのではないかと心配している。
- ・生成 AI について、学校ではどのように教えているのか知りたい。
- ・自転車での「飲酒運転」「ながら運転」「ノンヘル運転」が問題になっている。今後、自転車事故の責任の度合いが高くなるだろう。小学生の間に、「自転車教室」等を通して、ヘルメット着用の大切さを教えていきたい。
- ・今年度 PTA で初めて「秋まつり」を実施した。卒業生がたくさん来て手伝ってくれて、大原野小学校の子ども達の縦の“つながり”を強く感じ、とても嬉しかった。

学校が目指している児童の成長には、家庭・地域との連携が欠かせません。学校での取組を各種たよりやホームページなどを通して発信していくと同時に、児童・保護者・地域からの様々な声に耳を傾けられているかなどについて、教職員は今後も自らに問い直す機会をもちながら教育活動・学校運営を進めていきます。